

現場が変わる

スマートモバイル活用術 02

図面積算や業務管理のクラウドサービス『Spider (スパイダー)』を運営するヴェイシス(本社・東京都豊島区、伊藤謙自社長)は、専門工事業を中心に建設現場でのスマートモバイル活用を促している。ある大手の専門工事業者では、大規模現場を対象にシステムの試験運用をスタートさせた。

きっかけは、クラウドサービスの使い勝手をユーザーに

ヒアリングしていた際に出てきた提案だった。現場作業中にスマートフォンなどで図面を確認できれば、わざわざ作業所まで戻る手間が省ける。

伊藤社長は「メモや写真を図面データに記すことで、業務ツールとして使える」と、開発を決めた。

2011年9月に米アップル社iPad、iPhoneの専用アプリケーション『s

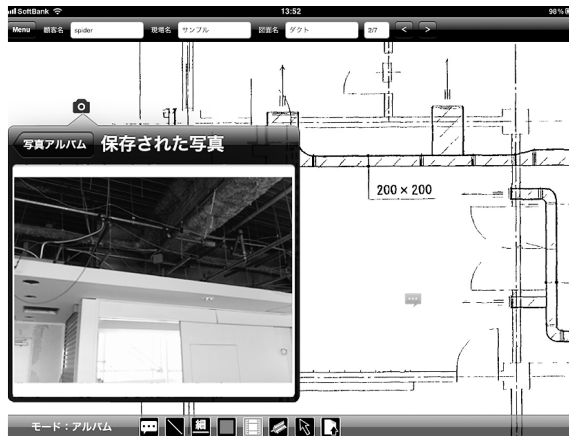
図面のメモが指示書に

ヴェイシス

Spider plus (スパイダー・プラス)』として提供を始めた。モバイル端末にはクラウドのサーバー内に保管した図面データを自由に打ち込むことができ、図面に打ち合わせ記録や現地調査で得た情報をメモや写真として残せる。簡易なスケール機能もあり、図面データを使って寸法などの計測も可能。現場の使い勝手を重視し、あえて最低限の機能にとどめた。

サーバーの図面データはPDF形式で顧客や現場別に整理され、会社のパソコンなどからも自由に閲覧できる。仮に現場で図面データにメモな

spider plus 専門工事業向けに提案



どの追加を行った場合、新たに加わったデータは履歴として出力でき、業務報告や現場の作業指示書にも応用できる。1アカウントは月3000円。導入には初期費用5万円が別途必要になる。

数量拾いなど現場で苦しんだ経験を持つ伊藤社長には「使う側の視点からシステムを考えた」自負がある。「実際に現場で使われているのを見れば、興味を持つはず。一度使えば、その手軽さも分かってもらえる」。元請

メンテナンス会社から大口の引き合いが来ている

企業のゼネコンに営業したいが、コネクショングがなく、クラウドのユーザーを足がかりに専門工事業を中心に地道な営業展開を続けている。70アカウントもの大口契約を検討しているリニューアル中心の建設会社で

は、山のようにある図面の中から、対象現場の図面を探すのに一苦労している。メンテナンスが中心であるために工事が多く、以前手掛けたビルからの依頼に迅速な対応を図りたいと図面管理のクラウドサービスを活用、そしてスマートモバイル活用にも興味を持った。

使い方は、図面を現場に持ち歩くだけではない。あらかじめサーバーに見積もり図面などを保管すれば、営業ツールにも利用できる。保管データを見るだけでなく、見せる切り口も考えられる。今春にはアンドロイド版アプリケーションも提供する。伊藤社長は「クラウドサービスに連動した付加価値ツールとして、スマートモバイルは欠かせない」と確信している。

